

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970500623		
法人名	医療法人 芙蓉会		
事業所名	グループホーム芙蓉		
所在地	山梨県笛吹市一宮町竹原田1359-1		
自己評価作成日	平成24年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桃畑、金川の公園に隣接しているこのグループホームは、広い敷地の中に立地されており、居住空間がゆったりとしている。庭には芝生に野菜園があり、入居者も水やりをすることもある。家庭的でゆったりと過ごすことができる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通量の多い国道から少し中に入った所に事業所がある。眼前に公園があり日常的に散歩するには最適な所である。利用者が散歩に出かけた折に馴染みの人達が出来て、地域との関係も出来つつあると思われる。グループホームとして建築された施設は部分的に木材を使い、高級感があり、温かみもある。日々のケアから利用者の言葉や対応の仕方を記録してより良いケアを探る取り組みや自らステップアップのための研修を続ける職員達から今後の施設の発展が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム芙蓉

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所及び各ユニットの玄関に掲示し、共有している。全職員が理念を理解し、それに沿った取り組みがサービスの場面に活かされているとは言い難い。	左記に同じ	開設当初からの理念に途中から地域密着型のサービスとしての理念「利用者が地域の中での暮らしを支える事」を盛り込んである。この理念は職員間でも意識付けが出来にくいと感じている。	理念は様々な状況に応じて作り変えても良いと思われる。解り易く、意識し易い物に変える事を職員からの提案で取りかかる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	行事の際には、老人クラブや保育園の園児が協力してくださっている。	左記に同じ	月1回のボランティア「うた会」の歌を2ユニット合同で楽しんでいる。また老人クラブの人達が来所して「ハンドベル、手話コーラス」を披露してくれている。施設の納涼会の案内を近所に配っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の実習を受け入れ、認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めていただけるよう努めている。	左記に同じ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は、6か月に1回に留まっている。会議の方法や課題についての検討が引き続き課題となっている。	左記に同じ	運営推進会議は6か月に1回開いて事業報告をしている。今年から2か月に1回会議の開催を予定している。会議が有意義に活用出来る様に方策を考えている。	会議では外部評価の結果報告もポイントでもあるので提案をして意見を出してもらい有意義に活用できる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の代表の方に、運営推進会議に出席していただいている。市で開催している連絡協議会にも参加に努めている。	左記に同じ	4か月に1回市で主催している介護事業所対象の連絡協議会に参加している。うち1回は希望すれば誰でも参加出来る研修会である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員全員に配布。拘束となる行為、拘束廃止の目的については、理解を深めるよう努めている。玄関は自動施錠であり、自由に出入りはできないが、外へ出たい入居者がいる時は、一緒に出られるよう対応している。	左記に同じ	身体拘束はしていない。玄関の自動施錠は家族の理解を得ている。スピーチロックについては意識出来る様に職員にチェック表を配り確認をしている。	チェック表で確認出来たので全職員間で共有して意識づけ出来る様に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを職員全員に配布。虐待となる行為や虐待の兆候を示すサインなどの把握に努めている。	左記に同じ		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の連絡協議会などに参加し学んでいる。理解を深め活用できるよう努めている。	左記に同じ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を基に、十分な説明を行っている。不安な点は随時、話し合う機会を設けている。	左記に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、多くの意見や要望を出しやすいように配慮している。意見があれば、職員会議で議題に上げ、話し合っている。	左記に同じ	請求書を出す時に手紙を同封している。その中に意見や要望を出してくれる様子に書き添えてある。家族の要望は会議で取り上げ話し合いをしている。来訪時にも気軽に言ってくれる様に常に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	左記に同じ	事務長同席の職員会議では意見が数多く出ている。要望等は必ず返答、対応がある。手すりの取り付けの要望が通っている。年間行事は担当職員が企画して実施している。自らの研修希望が通り、施設からの要請の研修に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を極力聞き入れ、無理なく勤務できるような配慮をしている。	左記に同じ		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内を掲示・回覧し、参加を促している。必要な研修に関しては、勤務調整を行い、参加できるようにしている。研修で得てきたものを、更に内部研修として活かすよう努めている。	左記に同じ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会や研修会等で、情報交換を行っている。	左記に同じ		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前事業所との連絡を密にし、情報を得ている。必要に応じては、入居前に自宅訪問をし何度か面会する機会を設けたり、お試し利用(入居前に一日もしくは一泊)を行い、少しずつ関係を深めていくことに努めている。	左記に同じ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族から困ることや要望を十分に聞く機会を設けている。	左記に同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報とのギャップについては、すぐに修正できるように努めている。	左記に同じ		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって職員は、家族であったり職場の同僚であったり、認識がまちまちなので、個別に合った接し方をしている。	左記に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に安心して過ごしていただくため、可能な限り家族に協力を依頼している。	左記に同じ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連携し、行きつけだった場所へは、入居後も継続して連れて行っていただけるようにしている。近所の方や親戚などで、ホームに訪訪できる方には来ていただけるように声掛けをしている。	左記に同じ	友達や親戚の人達の来訪を歓迎しており、何度か来てくれる様に言葉掛けもしている。「自宅に行きたい」と言う利用者が多く、受診後に自宅周辺をドライブしている。手紙の取り次ぎ支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きなトラブルを起こさないように、仲介したり様子を見守っている。	左記に同じ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居された方や、他施設に移動された方の面会に行き、経過を見守っている。	左記に同じ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、センター方式に基づいた聞き取りを行い、希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に関しても、発した言葉や言動などを記録し見直しをしている。	左記に同じ	情報をセンター方式に書き落している。それを基に思いの把握に努めているが入居してから理解出来る事も多い。日々のケアの中で発した言葉やその時の対応を記録に重ねる事で統一したケアに結びつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に基づき記録している。入居前の生活により近づけることができるように努めている。	左記に同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察記録を、日内変動がわかるようにし、心身状態の把握に努めている。	左記に同じ		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を一番に考え、計画を作成している。	左記に同じ	入居して1か月位様子を見てから介護計画を作成している。6か月に1回見直しをしている。状態が変化した時はその都度対応している。職員から意見や気づきを聞きプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録に日々の様子や気づいたことを記録している。申し送りノートや職員会議では、情報を共有し、計画に活かしている。	左記に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望や家族の状況に応じて、通院や外出など、必要な支援を行えるよう努めている。	左記に同じ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の紹介で、ボランティアの方を行事などに迎え、入居者が楽しめるように努めている。	左記に同じ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が、入居前からのかかりつけ医に、継続通院している。遠方などの理由で主治医を変更する場合も、紹介状を作成してもらうなど、治療を継続できるようにしている。	左記に同じ	入居前のかかりつけ医は家族が対応している。都合がつかない時は職員が同行支援をしている。受診時は血圧や日常の様子を伝えている。口頭と書面の時がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護にて相談し、アドバイスを頂いている。	左記に同じ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供を行っている。治療期間や退院の目処など、家族と共に医療機関との話し合いに参加させていただいている。	左記に同じ		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「重度化対応・終末期ケアに係わる指針」を説明し、同意書にサインを頂いている。入居者の状態に変化があった場合は、これから想定される状況についても話し合っている。	左記に同じ	入居時に施設の指針を家族に説明してサインを貰っている。看取りの希望があれば医療面や職員の意思の確認等条件が整えば受け入れを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、同法人内で行われる救急訓練に参加しているが、いざという時に手際よく、落ち着いた対応ができるかどうか不安がある。	左記に同じ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、防災訓練を行っている。災害時、手際良く行動できるかどうかは不安がある。スプリンクラーの設置により、火災については若干安心できる。	左記に同じ	昼間と夜間に1回づつ火災想定避難訓練を実施している。その際防災設備会社のより消火器の使い方の指導を受けている。備蓄品を確保してある。避難経路は確認してあるが平屋なのでどこからも逃げられる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては、十分な配慮に努めている。個別に馴染みややすい言葉かけで対応しているが、長期関係での馴れ合いすぎってしまうことに関しては、注意しなければならない。	左記に同じ	書類は事務所に保管してある。呼び名は基本的には名字で呼んでいるが一日を楽しく明るく過ごしたいという思いからくだけた呼びかけになる事もある。利用者とは話をする時はプライバシーを損ねないように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる入居者に対しては、決める機会を作っているが、意思表示が難しい入居者に対しては、もっと働きかける必要がある。	左記に同じ		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の変化で起床や食事など、決まった時間での行動が不可能な場合は、時間をずらすなどの配慮をしている。	左記に同じ		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助しやすいジャージやスエットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服を着ている入居者が多い。	左記に同じ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には嗜好をお聞きして、苦手なものは交換するなどの配慮をしている。テーブルを拭いたり、下膳ができる方にははしていただいている。	左記に同じ	法人の献立で食材が配達される。事業所独自に変更出来て、足りない食材は近くのスーパーで購入する。職員が食事を作っており、テーブルふき、御着の用意、野菜の下ごしらえ等利用者が出来る所を職員と共にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みや障害に合わせた形態で食事をお出ししている。	左記に同じ		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助が必要な方を把握し、義歯の管理が必要な方は、預かるなどしている。	左記に同じ		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンの把握に努め、入居者に合わせた声掛けや誘導を行っている。	左記に同じ	排泄は個人観察記録に記入している。記録を把握して様子を見ながらトイレ誘導している。誘導する時の声かけはプライバシーに配慮して、失敗した時も周りに気づかれない様に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症で管理が必要な入居者に対しては、排便チェックを行い、個々に応じた対応(下剤服用・摘便等)をしている。	左記に同じ		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、決まった時間帯に入浴している。入居者の体調や希望で入浴できるよう改善していきたい。	左記に同じ	日曜日以外毎日入浴出来る。午後のおやつ時間帯の前に入る。希望で一日置きに入る人もいる。冬場に嫌がる人には本人が入りたい気分になるまで待っていたり、タイミングよく午前中に入る意思が出れば午前中入っている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドや寝具はレンタルもしているが、入居時に希望をお聞きして、馴染みのベッドや寝具を持ってきていただくこともある。	左記に同じ		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報は、すぐに見ることができるように、ファイルしてある。(個人ファイルと内服薬情報ファイル2箇所) 処方内容が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用などが予測される場合は付け加えている。	左記に同じ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの制作や、行事への参加を支援している。喫煙・飲酒・コーヒーなど、希望のある方には提供できているが、もっと幅広い希望を取り入れていきたい。	左記に同じ		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に散歩や買い物、外食などの支援をしている。	左記に同じ	年間の外出行事は春と秋に実施する。職員が2名付き添い、行き先自由で小グループにて順番に外出、外食している。眼前の金川の森公園に散歩に出かけ馴染みになった人達がいて、言葉をかわしている。中庭で日向ぼっこしたり、くつろいだりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度を管理しての方はいる。能力に応じて、支払いもしてもらっている。	左記に同じ		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望する方には支援している。手紙についても、届いた物の返事を出す支援をしている。	左記に同じ		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良いため、カーテンや照明でこまめに調節をしている。カレンダーや季節の制作を飾り、四季を感じていただけるような工夫をしている。	左記に同じ	2ユニットが事務室を挟んで東と西に対称に出来ている。居間とキッチンが一体的で広くて明るくとも開放的である。壁面には行事の写真や利用者が描いた絵を配置良く飾り付けている。半円形の洗面台や玄関のいすも雰囲気があり、常に雑多にならない様に気を配っていると感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を思い思いに使用している。	左記に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでもらっている。こたつを立てたり、写真を飾ったり、居心地のよい場所作りの工夫をしている。	左記に同じ	ベッドは自宅の物を使っている人と施設の物を利用している人がいる。テレビ、たんす、こたつ等馴染みの物を持参して心安らぐように部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長い廊下を自由に行き来できるよう、所どころに腰かけを置き、ひと休みできるよう配慮している。			